2022年度 第2四半期決算について

2022年11月15日

古河電池株式会社

Contents

01 22年度 第2四半期決算概要

02 22年度 業績予想

03 トピックス

© 2022 Furukawa Battery

01 22年度 第2四半期決算概要

© 2022 Furukawa Battery

22年度 第2四半期決算 ポイント（6ヶ月）

事業環境（日本）	● 鉛価格が高く推移（21年度上期 30.5万円/t⇒ 22年度上期 34.2万円/t） ● 原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加。 ● 半導体不足等の影響もあり新車・取替需要は前年並み。 ● 産業分野は、データセンター向けが堅調に推移しているが、部品調達コストの増加と納期延伸。 ● 2022年4月～9月 四輪自動車生産台数：358万0965台（前年同期比0.3%増）

事業環境（海外）	**連結期間は2022年1~6月。**	
	タイ	● 市販マーケットはスローダウン、新車生産台数は、半導体不足による工場停止の影響もあり、鈍化傾向。 ● コスト面では、原材料およびエネルギーコストの増加影響が継続。 ● 2022年1～6月 四輪自動車生産台数87万111台（前年同期比3%増）
	インドネシア	● 新車販売台数は、減税措置が緩和されたものの好調を維持。 ● コスト面では、原材料の増加影響が継続。 ● 2022年1～6月 四輪自動車生産台数66万2836台（前年同期29%比増）

© 2022 Furukawa Battery

22年度上期業績サマリー

■ 売上高は**増収**。営業利益は原材料価格の高騰とエネルギーコストの増加により**減益**。

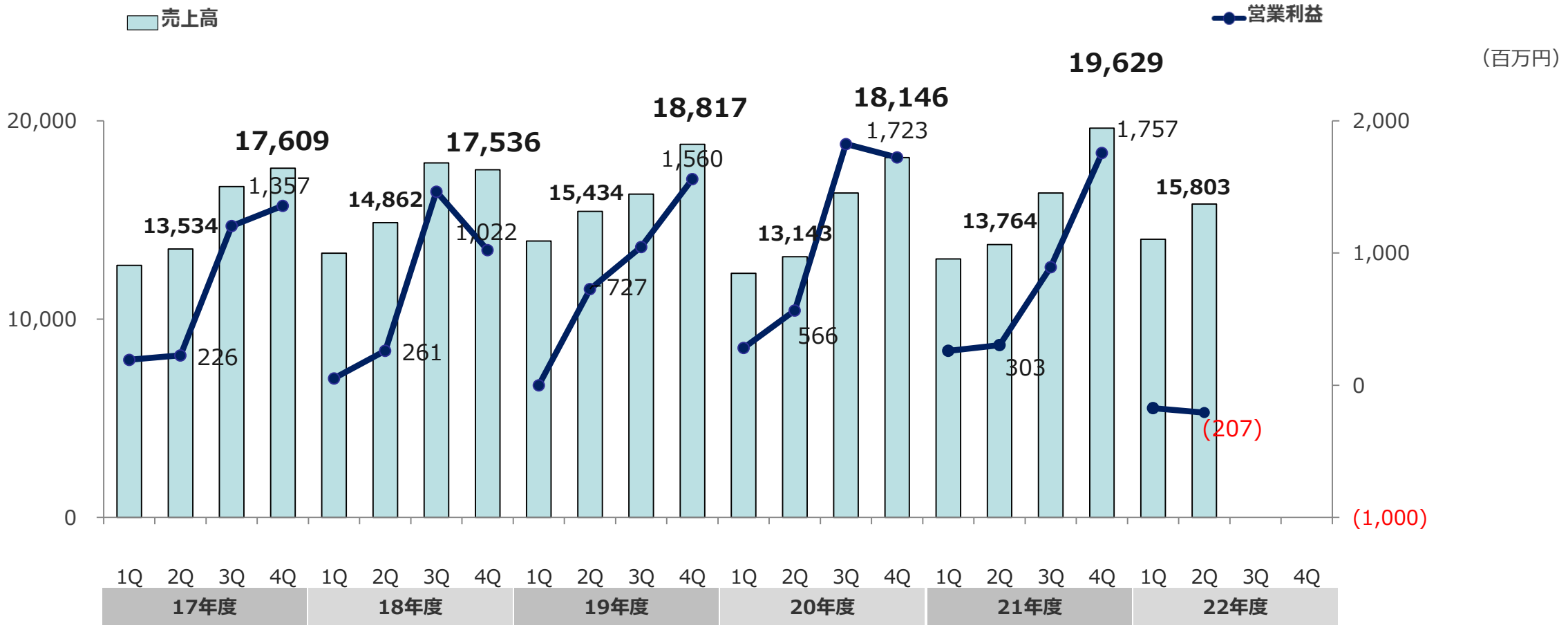
（単位：百万円）	21年度 上期実績	22年度 上期実績	前年度差（増減）	前年度比	22年度業績予想（5/12）
売上高	26,799	29,830	3,030	11.3%	70,000
営業利益	562	△381	△943	△167.7%	2,400
対売上高比率	5.1%	-			
経常利益	645	△231	△877	△135.9%	2,400
対売上高比率	5.4%	-			
親会社株主に帰属する当期純利益	563	△228	△791	△140.4%	1,950
対売上高比率	6.1%	-			
海外売上高	9,667	11,975	2,308	23.9%	-
海外売上高比率	36.1%	40.1%			
フリー・キャッシュ・フロー	856	△2,956	△3,812	-	-

鉛建値（平均）：21年度上期 30.5万円/t ⇒ 22年度上期 34.2万円/t

© 2022 Furukawa Battery

売上高・営業利益の推移_四半期

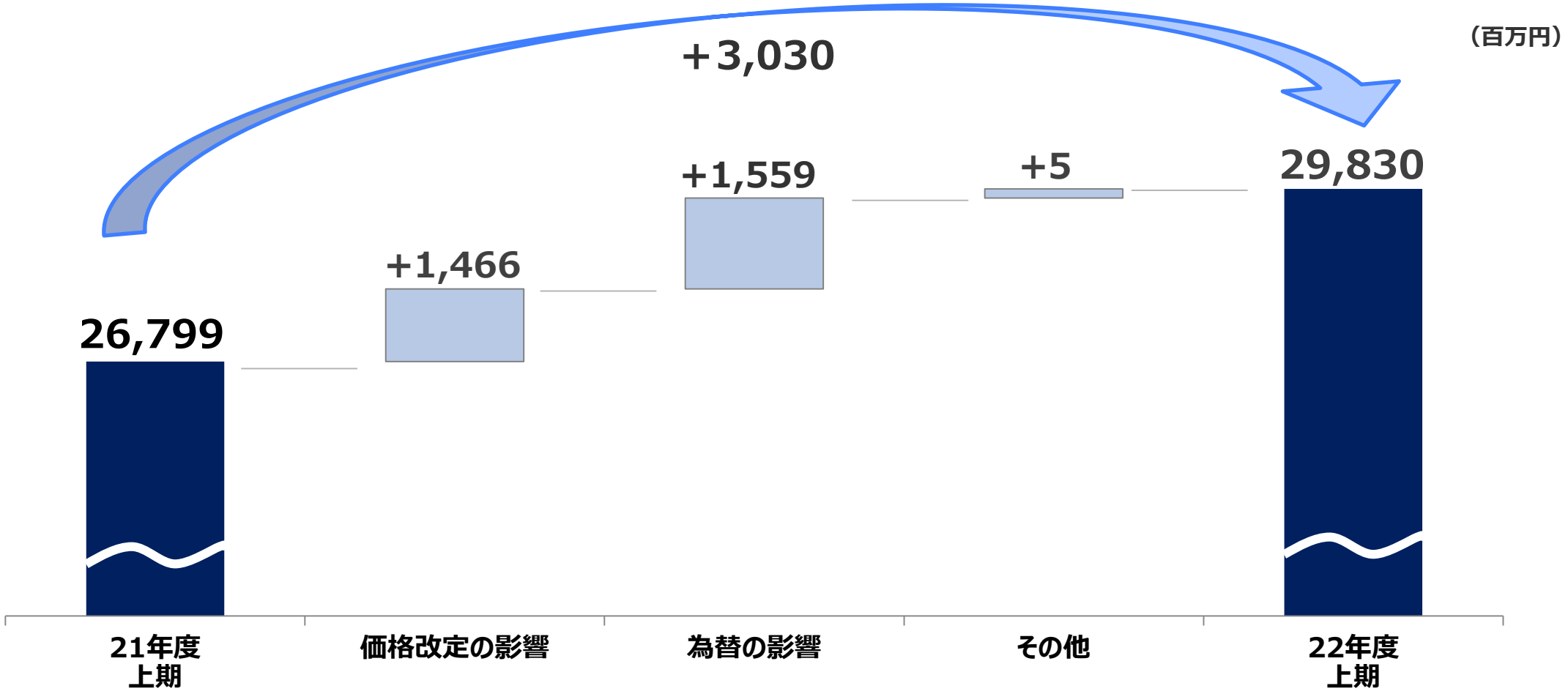
■ 原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加により、**減益**。



© 2022 Furukawa Battery

連結売上高 増減分析

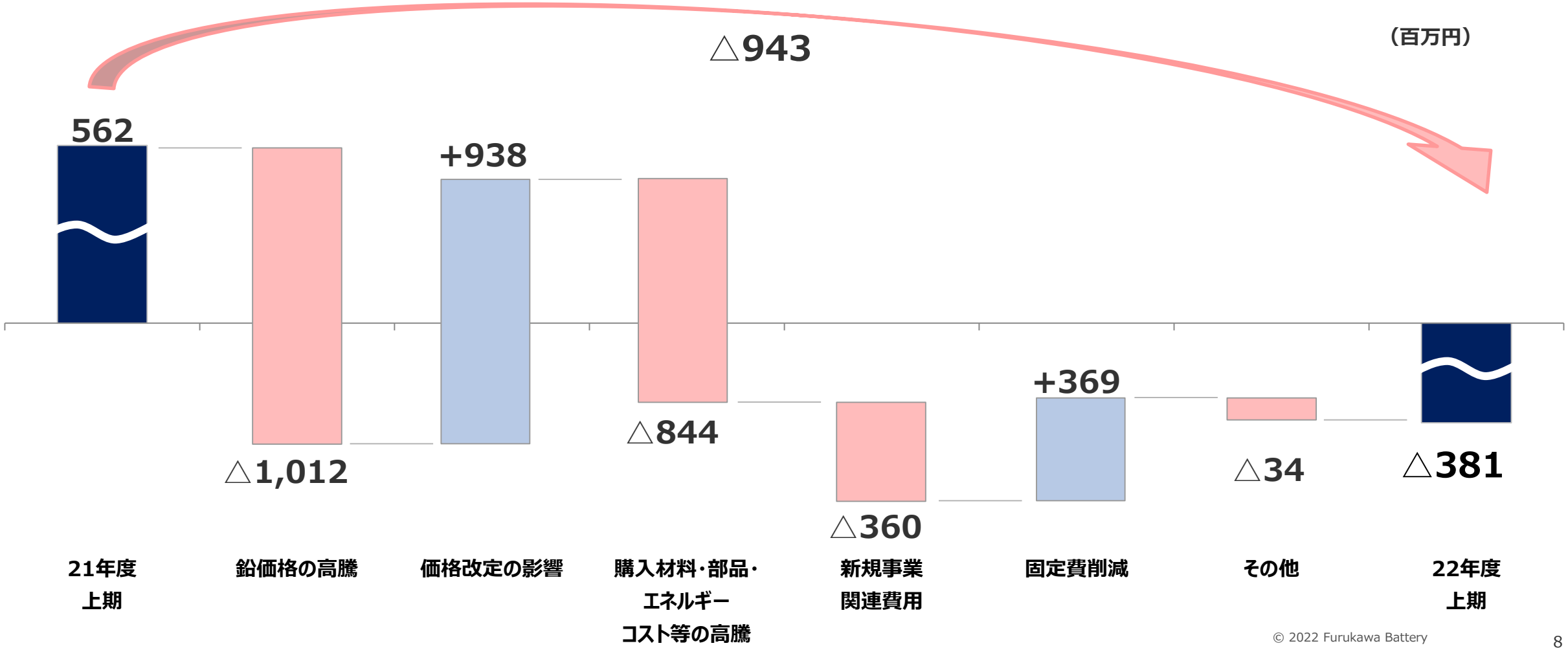
■ 価格改定および為替の影響により30億円の**増収**。



© 2022 Furukawa Battery

連結営業利益 増減分析

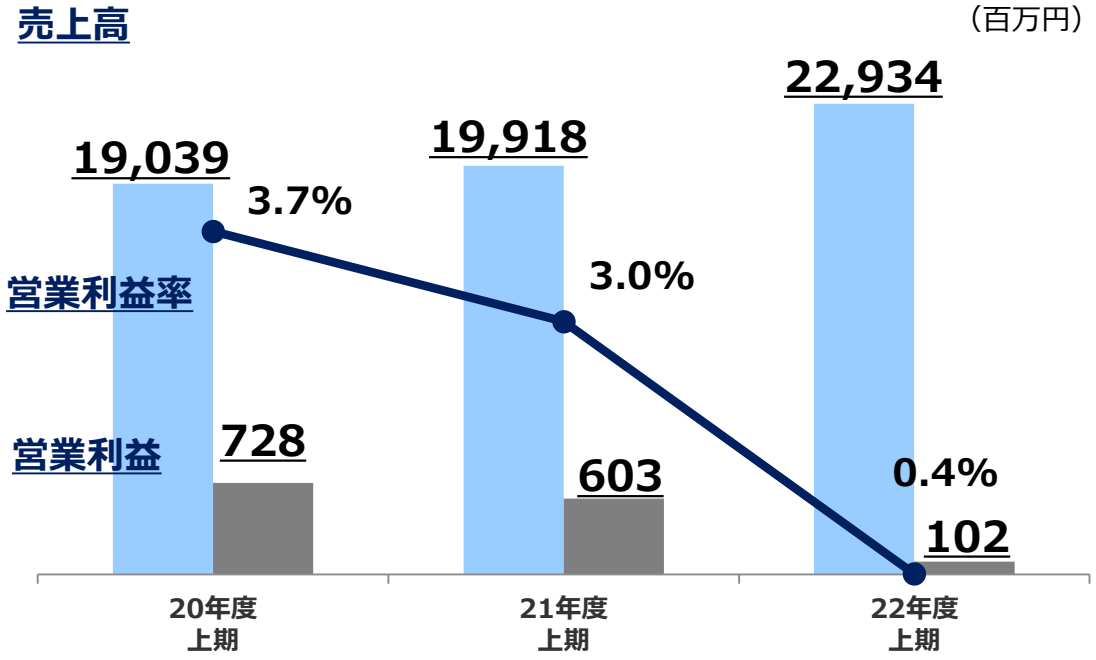
■ 値上げや固定費抑制等の活動を推進したものの、原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加により**減益**。



© 2022 Furukawa Battery

自動車セグメント 決算概況（6ヶ月）

自動車 セグメント	国内新車・取替需要は前年並みに推移、海外は堅調に推移したことにより増収。原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加により減益。			
	売上高	22,934百万円	前年同期比	15.1%（3,015百万円）増
	営業利益	102百万円	前年同期比	501百万円減

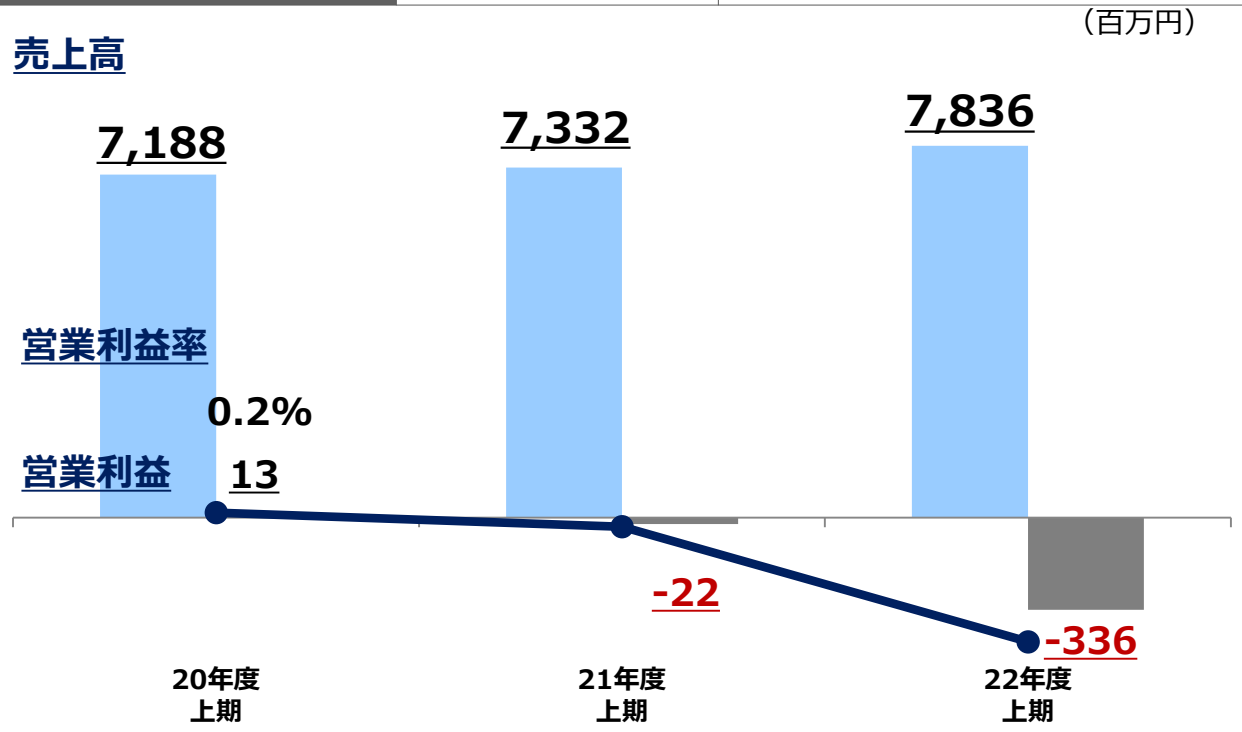


- 日本：新車・取替需要は前年並みに推移。ウクライナ情勢に起因してロシア向けが輸出停止。
- インドネシアFIBM：新車・取替需要ともに前年比増。原材料価格の高騰の影響により減益。
- タイSFC：新車・取替需要ともに前年比増。輸出はコンテナ不足等の影響により出荷遅延。原材料価格の高騰およびエネルギーコストの増加により減益。

© 2022 Furukawa Battery

産業セグメント 決算概況（6ヶ月）

産業 セグメント	データセンター向け等が堅調に推移したことにより**増収**。原材料価格の高騰やエネルギーコストの増加により**減益**。			
	売上高	7,836百万円	前年同期比	6.9%（503百万円）増
	営業利益	△336百万円	前年同期比	314百万円減



- データセンター市場については、拡大基調が継続しており、堅調に推移。
- 中国における鉄道向けが回復傾向。
- 半導体不足等の影響により部品調達コストの増加。

国内データセンター建設投資予測*

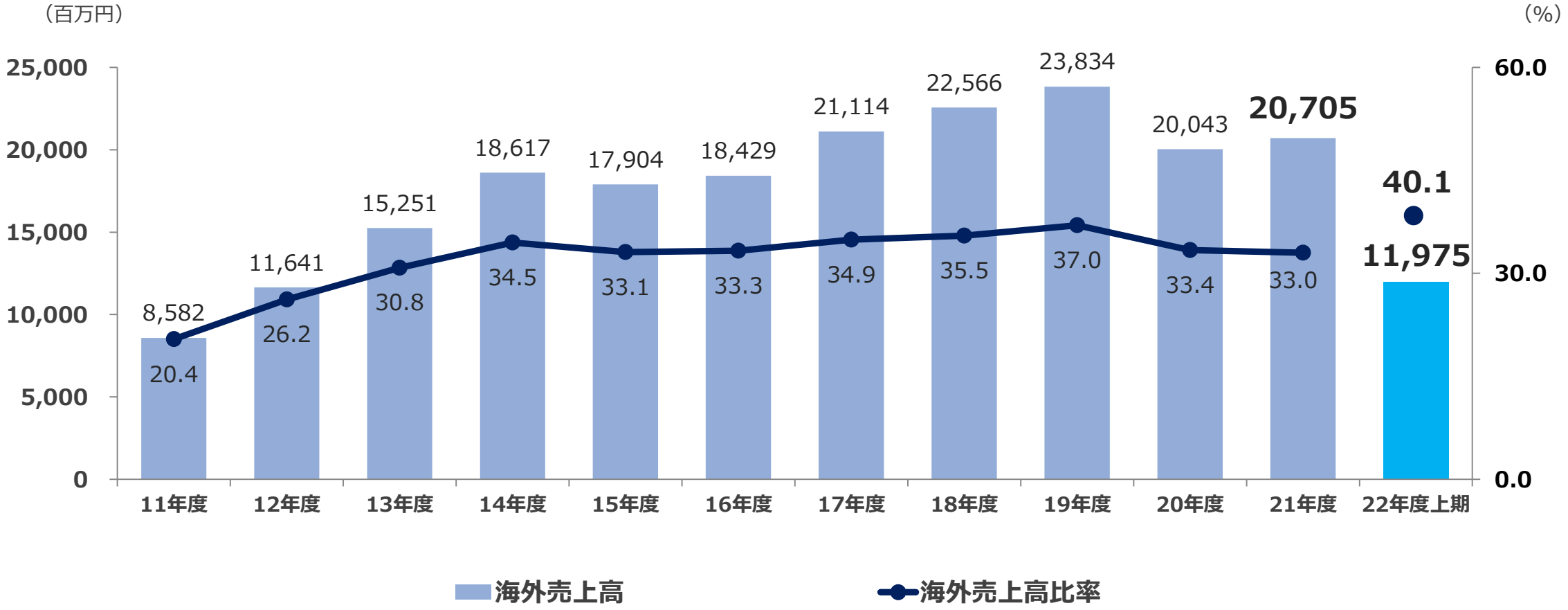
2022：2,236億円
2023~26：クラウドサービス向けハイパースケールデータセンターの増設需要が関東地方および近畿地方で引き続き強い傾向にあり、毎年4,000億円を超える投資規模になると予測。

* IDC Japan, 2022.5.31リリース「国内データセンター建設投資予測を発表」

© 2022 Furukawa Battery

海外売上高

■ 22年度上期は新車・取替需要ともに堅調に推移したことにより前年同期で23億円増加し、海外売上高比率は40.1%となりました。



© 2022 Furukawa Battery

連結貸借対照表（22年3月末 / 22年9月末）

- 受取手形および売掛金等が32億円減少。
- 棚卸資産が47億円増加。短期借入金32億円増加。

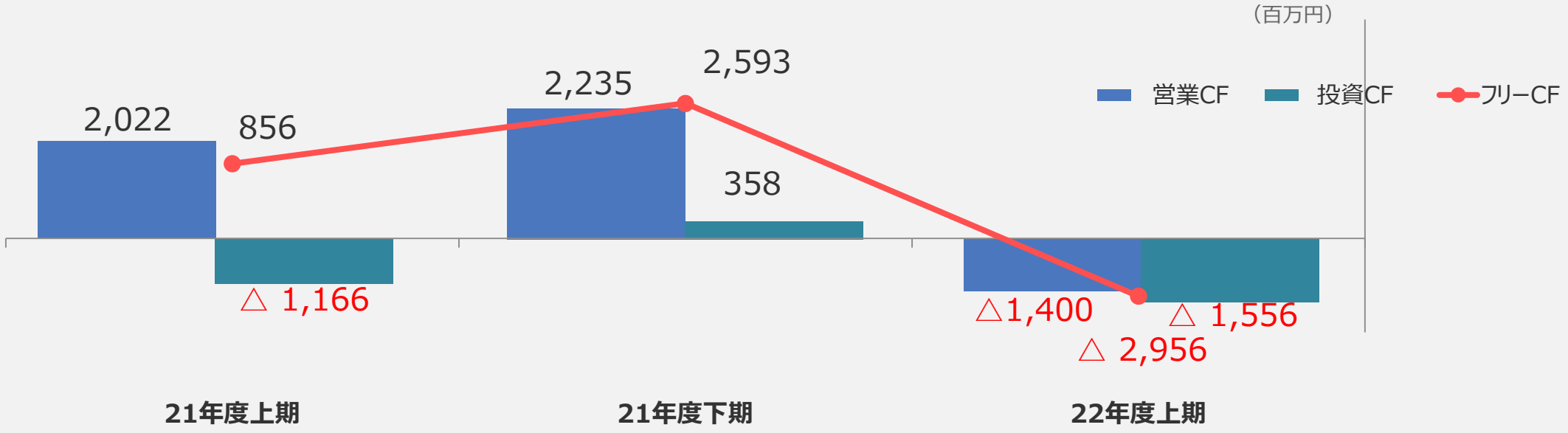
（百万円）

資産	22.3 末	22.9 末	増減額
流動資産	32,548	33,642	1,093
現金及び預金等	10,169	9,570	△599
受取手形及び売掛金等	13,663	10,460	△3,203
たな卸資産	7,650	12,355	4,705
固定資産	28,133	29,609	1,476
有形固定資産	23,081	24,122	1,040
無形固定資産	782	1,061	279
投資その他の資産等	4,268	4,425	156
資産合計	60,681	63,251	2,570

負債・純資産	22.3 末	22.9 末	増減額
流動負債	16,451	18,695	2,244
支払手形及び買掛金等	7,755	7,351	△404
短期借入金	3,641	6,897	3,257
固定負債	10,404	10,086	△317
長期借入金	1,434	941	△493
退職給付に係る負債	7,175	7,221	46
純資産	33,826	34,469	643
利益剰余金	29,057	28,132	△925
負債純資産合計	60,681	63,251	2,570

© 2022 Furukawa Battery

連結キャッシュフローの状況



営業CF・投資CF

■営業CF	**（△1,400）**
• 税金等調整前当期純利益の減少	（△236）
• 売上債権の減少	（+3,448）
• 棚卸資産の増加	（△4,433）
• 仕入債務の減少	（ △728）
■投資CF	**（△1,556）**
• 有形固定資産の取得による支出	（△1,276）
• 無形固定資産の取得による支出	（△293）

ポイント

■納期の延伸、部品の調達難を見越した在庫増や価格高騰などによる棚卸資産の増加や、利益の減少等により、フリーキャッシュフローは△2,956百万円。

© 2022 Furukawa Battery

02 22年度 業績予想

© 2022 Furukawa Battery

22年度 業績予想_2022年5月公表値から変更なし

■ 原材料価格の高騰、その他原材料価格の高騰、部品調達コスト・エネルギーコストの増加が見込まれる。

（百万円）	21年度 実績			22年度 見込み			増減額 (b-a)	増減率
	上期	下期	通期(a)	上期 (実績)	下期	公表値 通期(b)		
売上高	26,799	35,986	62,785	**29,830**	**40,170**	**70,000**	+7,215	+11.5%
営業利益	562	2,650	3,212	**△381**	**2,781**	**2,400**	△812	-
経常利益	645	2,749	3,394	**△231**	**2,631**	**2,400**	△994	-
親会社株主に帰属する当期純利益	563	3,274	3,837	**△228**	**2,178**	**1,950**	△1,887	-
海外売上高比率	36.1	29.9	33.0%	40.1	—		—	—

為替レート
・2022年3月期（期末） 1バーツ=3.43円 100インドネシアルピア=0.81円
・2022年下期 （前提） 1バーツ=3.90円 100インドネシアルピア=0.96円

鉛建値
・2022年3月期（平均） 316.5千円/t
・2023年3月期（前提） 338.0千円/t

© 2022 Furukawa Battery

22年度 配当予想_2022年5月公表値から変更なし

- 22年度の配当金は、21年度と同じ1株当たり22円を維持。
- 事業の成長性と財務健全性の最適バランスを追求し、中長期的に安定した配当を実現。

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
ROE (%)	9.7	9.4	8.7	12.8	12.2	-
1株当たり配当金 (円)	10.00	11.00	13.00	22.00	22.00	22.00
配当金総額 (百万円)	327	360	426	721	721	721
配当性向 (%)	15.3	15.9	19.0	19.9	18.8	37.0

© 2022 Furukawa Battery

03 トピックス

© 2022 Furukawa Battery

2022年度上期TOPICS-①(パートナー様との共創)

佐賀県小城市のオフグリッド電力供給システムで バイポーラ型鉛蓄電池の実証実験を開始

バイポーラ型鉛蓄電池

実証実験の目的

得られたデータや知見を今後の製品改良やサービス向上に活かし、お客様のニーズにお応えする製品に仕上げる。

実証実験の評価項目

【特性】　【動作状況】　【安全性】

【保守・メンテナンス性】

© 2022 Furukawa Battery

2022年度上期TOPIC-②

- 環境 ・省エネ法の事業者クラス分け評価制度において7年連続「Sクラス」優良事業者に認定
- 環境 ・気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明
- 社会 ・東京湾岸ゼロエミッションイノベーション協議会に参加
- 社会 ・福島県立勿来(なこそ)工業高校の学生に「電池の化学」をテーマに出前授業を実施
- 社会 ・「2022ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」に協賛
- 社会 ・「横浜マラソン2022」に横浜サポーターとして協賛

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

TCFDに賛同

Zero-emission Bay
Tokyo Zero-emission Innovation Bay

東京湾岸ゼロエミッション協議会

勿来工業高校授業の様子

© 2022 Furukawa Battery

古河電池は、社会的価値と経済的価値の両面から社会課題に向き合い、

お客様と社会に寄り添うサステナビリティ経営を実践し

本業で培った技術とノウハウを活かしながら企業価値の向上に努めてまいります。

今後も健全性・持続可能性をいっそう高め

SDGsを達成し、サステナブルな社会の実現に挑戦します。

©2022 Furukawa Battery

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

・為替相場の変動による影響

・主要製品に使用される原材料の価格変動

・海外における政治的および社会的リスク

・取引先の業績悪化等

・大規模災害（地震や風水害などの自然災害、伝染病・感染症の流行）等の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

（注）当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。
年度表記について、19年度は2020年3月期、20年度は2021年3月期（以下同様）を表しています。

© 2022 Furukawa Battery